

観天 望気

豊かな海とともに進化する

近年、養殖産業は世界的に注目されている。環境にやさしく、健康的で栄養価の高いタンパク質の供給源として、世界中で拡大する水産タンパクの需要を支えており、養殖産業の成長は世界的に加速し続けている。半面、日本では高コスト体質、従事者の高齢化・後継者不足なども加わり、海面養殖生産量は1995年をピークに30年近く停滞し続けている。

持続可能性を確保しながら養殖産業が成長を継続するためには、多くの課題が存在している。海洋環境に起因する魚病の発生や赤潮被害の増加、抗菌剤使用の反動としての耐性菌の問題、天然種苗採捕による生態系への負荷など、挙げ始めたらきりが無い。

これらの課題を解決するために、人工種苗の開発による天然資源への負荷低減、適切な養殖場の選定と運営、養殖場周辺の水質維持、環境負荷の低い飼料の開発など、持続性の確保に向けてさまざまな取り組みがおこなわれている。労働力不足も深刻であり、その対策として働きやすい職場づくりに加え、養殖関連設備の開発による機械化・効率化の促進も重要だ。また、新たな生産技術として注目されている沖合養殖や陸上養殖についても、実現に向けての技術開発が進められている。これらの取り組みを通して、持続可能な成長力に富んだ養殖事業を育て上げていきたいものだ。

日本の国土は狭いものの、海岸線の長さや海域の広さは世界トップクラスである。半面、恵まれた海洋資源があるにもかかわらず、養殖適地は限られている。日本において養殖産業を成長させるためには、関係機関・研究機関・地域コミュニティなど産官学が一枚岩となり、一つの方向に突き進むことが重要である。

また、日本の歴史が育んだ独自の魚食文化は今やグローバルに広まり、世界中の食卓を豊かにするとともに人々に笑顔と健康を与えている。この貴重な日本発信の文化をさらに発展させるためにも、豊かな海を守り、養殖産業の持続的成長を実現したい。



田中 輝

株式会社ニッスイ 執行役員
水産事業副執行・養殖事業推進部管掌

たなか てる

1988年東京水産大学卒業。同年日本水産株式会社(現・株式会社ニッスイ)入社。入社以来サケマス・魚卵・カニなどを担当。2006年ニッスイのグループ会社サルモネス・アンタルティカ社(チリにあるサーモン養殖会社)代表取締役社長就任。19年より現職。